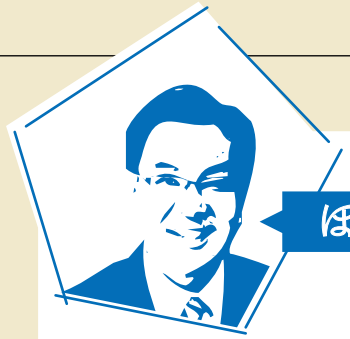

市長モリテツの
ほっとトーク
June 2021

市民への説明と市長の責任

― コロナ禍での対応と信頼関係 ―

三田市長　森 哲男

今般、私がワクチン接種を受けたことに関し、市民の皆様に不快な思いをさせてしまいましたことを、心からお詫び申し上げます。多くの方が接種を待っておられ、また高齢者の接種予約では予約電話がつながりにくいとのお叱りもいただいている中、市民の方々のみならずコロナ対策に取り組んでおられる多くの皆様に市政に対する不信感を与えてしまったことについても、もっと慎重に対応すべきであったと反省しております。

この間、様々なご意見をいただきました。なかには、「市長がコソコソ接種するのは良くない事だ。事前に市民に説明がないのはおかしい」など、厳しいご意見もありました。

私は、市民から選ばれた市長は、市民の命と生活を守る責任者として、災害発生時などの危機管理の対応に、最終的な政治責任を取るべき立場にあると考えています。災害時に適時適確な判断を行うことは当然ながら、市の方針決定に遅れが生じることもあってはならないと日頃から強く考えてきました。そのため、自らの健康管理に日々十分注意するとともに、新型コロナウイルス感染症が発生してからは、感染予防の安全対策に万全を期してきました。そして、より確実に責務を全うするため、市長自らが早期にワクチンを接種することは、市民の安全安心を守る危機管理として、必要な対応であると考えてきました。

そうした中、感染した場合のリスクが高い高齢者の方々に先んじてワクチン接種を受けることにためらいもありましたが、5月13日にワクチン接種を受けました。

危機管理の観点から市長が先行してワクチン接種を受けるという方針について、あらかじめ庁内に議論を広げ、市民から理解を得られる適切な方法を考えていくべきでした。さらに、市民の皆様には接種前に公表すべきであったと反省しております。

今回、心ならずも市民の信頼を裏切ることとなり、三田市のイメージを損ねたことについて深く反省しています。今後、接種対象や仕組みなど、ワクチン接種のあり方について、幅広く議論されることも必要だと思っています。三田市においても、ワクチン接種が円滑に進み、市民の皆様が遅滞なくワクチン接種を受けられ、安心して生活ができるよう全力で取り組んでまいります。

Mayor's Photo Diary

5月7日　コロナ禍で「三十路式」が中止に。開催費用で地元に恩返しとメンバーが車いすを寄贈

4月21日　「さんだ里山スマートシティの推進に関する連携協定」を丸紅㈱・関西電力㈱と締結